

行方にメガソーラー

藤崎建設工業

賃貸マンション建設の藤崎建設工業（行方市新宮、藤崎政行社長）は発電事業に参入する。行方市内に大規模な太陽光発電設備（メガソーラー）を来年1月にも稼働し、東京電力に売電する。福島第1原発事故に伴う原発停止で電力供給が不安定となり、政府が再生エネルギー特別措置法を基に電力買い取り制度を進めている点に着目した。「中小企業が地域内で電気を供給することも重要」（藤崎社長）として、小型発電設備を含め事業展開する。

同社のメガソーラーは、同社は9月ごろに着工。行方市橋門の山林と一部農地を合わせた土地1・78ヘクタールを、11月に完成、試験運用を経て来年1月にも東電へに建設する。国内メーカーの売電を始める計画だ。事業費は約3億5千万円。売電のシリコン太陽電池パネル（縦約1・6メートル、横約1メートル）を約3ヘクタール間に416枚並べ、売りは年間4千万円程度になる見込み。

年間発電量は100万キロワット時、一般住宅約300軒分の電力を賄える。二酸化炭素（CO₂）排出の削減量は320トンとなり、森林面積約90ヘクタール、25万リットルの原油節約につながるという。

また同社は神栖市高浜の自社所有地約2200平方メートルでも、同じ太陽光パネル420枚を設置し、発電を行う。年間発電量は10万キロワット時、一般住宅約30軒分に相当。CO₂削減量は32トン。

1月稼働 年100万キロワット時を発電



藤崎建設工業がメガソーラーを建設する予定地。年間100万キロワット時を売電する＝行方市橋門

で、森林面積約9ヘクタール、25万リットルの原油節約になる。7月着工し、9月にも売電を始める。

同社は自社ブランドのマンション建設を手掛けるほか、遠赤外線を出す特殊セラミックスを使った空調システム「光冷暖システム」も施工販売。エネルギー分野を新たな事業に育てる方針。

（綿引正雄）